

結果の考察（R4、12月）

<保護者アンケートより>

- ・最も評価の高かった項目は、前回7月と同様に「児童のいろいろな行事への取組」で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した保護者の方は98.2%（前回99.0%）でした。評価の高かった要因としましては、新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖や学年閉鎖がありましたが、全ての行事等を実施できたことや、子供たちが各行事等に一生懸命取り組んでいる姿をご覧いただけたこと、そして、保護者の方々にご理解とご協力を得ることができたためと思います。また、2学期においても授業参観を実施することができ、児童の頑張っている姿を見ていただく良い機会となったことも高評価に繋がった要因と考えられます。
- ・次に評価の高かった項目は、「ICT機器の活用」で、「よくあてはまる」とご回答いただいた方が4.4%上昇しています。担任は、授業において、積極的にクロームブックや電子黒板などのICT機器を活用し、子供たちの興味・関心や学力の向上に努めています。今年度は、算数科におけるICT機器の活用を校内研修の重点に据えて研究し、教員のICT活用指導力も向上しています。これらのことが高評価に繋がったと考えられます。また、子供たちもクロームブックの操作に慣れ、高学年ばかりでなく、低学年から授業でどんどん活用していることも高評価の要因の一つであると考えられます。
- ・3番目に高かった項目は「基礎的な学力が身に付く分かりやすい授業」でした。この項目においても「よくあてはまる」とご回答いただいた方が2.5%上昇しています。担任は、基礎・基本の定着に力を注ぎ、補充学習等も適宜行っています。また、ICT機器を活用することで、今まで以上に分かりやすい授業が展開できていることや、分からないことはクロームブックを使ってすぐに調べられる環境にあることも大きな要因となっていると考えられます。
- ・最も評価の低かった項目は、前回の7月と同様に「児童の読書活動への取組」でした。しかし、「よくあてはまる」「ややあてはまる」とご回答いただいた方は71.8%（昨年12月63.3%）で上昇傾向にあります。学校では朝の読書活動や休み時間の図書室の利用、図書委員会による本の紹介などで、読書活動の奨励に力を注いでいます。また、図書室の先生による低学年の読み聞かせを実施したり、校長先生による読み聞かせや本の紹介なども行い、読書活動の奨励に努めています。学校では今後も、色々な工夫をしていきたいと考えておりますが、ご家庭におかれましてもノーメディアデーに継続してご協力いただき、本に接する機会を増やしていただければと考えております。
- ・次に評価が低かった項目は、「家庭での自主学習への取組」です。しかし、「よくあてはまる」とご回答いただいた保護者の方が前回より3.0%上昇しております。担任は、ドリルなど工夫しながら宿題を出し、ほとんどの児童はきちんと取り組むことができます。ドリルなどは3回目を行う児童も見られます。また、宿題以外の自主的な学習も徐々に増えているようです。クロームブックを使った電子学習ドリルの「ナビマ」なども活用が増えてきているようです。担任よりの声かけにより、子供たちの学習意欲を向上させ、「ナビマ」の活用などを増やしていきたいと思っております。ご家庭においてもご協力をよろしくお願いいたします。

- ・記述欄には学校の取組に対してのご理解と賞賛を多数いただきありがとうございます。しかし、一方で、クロームブックの取り扱い、行事の日程等（授業参観、面談等）について、あいさつについて、通知表の所見について、登下校について、学校の施設・設備について、リモート授業について、プール学習について、テストの実施や採点について、文房具に関する件等、様々なものがありました。貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後の課題として改善に向けて学校で協議していきたいと思えます。

<児童アンケートより>

- ・全体的に高評価でした。その中でも最も高かったのは「先生は分かりやすく勉強を教えてください」の項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせ98.6%でした。今年度、教員の校内研修において、算数科における効果的なICT機器の活用について研究を進めています。その成果として、教員がICT機器をいろいろな場面で活用し、子供たちの興味・関心を高めつつ、分かりやすい授業を心がけたことに要因があると考えられます。
- ・次に評価が高かった項目は、「先生は頑張っていることを褒めてくれたり、困っているときに助けてくれたりする」で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせ98.1%でした。先生方は、日々、子供たちをよく観察し、良いところは褒め、また、細かな変化を見逃さないように心がけています。教育相談も定期的実施するなど、子供たちに寄り添った対応を、学校全体で実施できるように確認し、生徒指導の充実に努めていることが高評価に繋がっていると考えられます。
- ・最も評価が低かった項目は、前回と同様「家庭での自主学習への取組」でした。しかし、徐々に改善傾向にあり、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童は、令和3年12月は84.1%、令和4年7月は86.9%、今回が87.8%でした。教師の働きかけやドリルへの積極的な取組、クロームブックの活用などが好影響を及ぼしていると考えられます。
- ・次に評価の低かった項目は、「英語の授業は楽しい」で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童は89.4%でした。学年が上がるにつれ評価が下がる傾向にあり、5・6年生では82.0%です。4年生までは外国語活動ですが、5・6年生では英語科となり、学習する内容も難し、書くことも増えてくることから、評価が下がっていると考えられます。5・6年生は、中学校の英語の免許をもつ教員が指導していますが、今後、さらに子供たちの興味・関心を高め、「楽しい」と思える授業にしていきたいと思えます。

<職員アンケートより>

- ・最も評価が高かった項目は、「あいさつやマナーの指導」でした。あいさつのできない子供が徐々に増えているように感じています。そのため、学校では、あいさつの指導を全教職員で進めております。学校評価アンケートにおいても保護者の方より「あいさつのできない子がいる」というご指摘も受けております。学校では、大きな声で「あいさつ」できるように指導して参りたいと思えます。ご家庭におかれましても、お声かけをよろしくお願いいたします。

- ・次に評価が高かった項目は、「いじめのない学級づくり」でした。コロナ禍において、子供たちの学校生活も変化してきています。教職員には、常に子供たちの様子に気をはらい、安心できる学級づくりを呼び掛けています。子供たちの心の居場所をつくること、そして、自己存在感、共感的人間関係を育成していくことを意識して学級づくりに取り組むことを学校全体で進めております。今後も、子供たちに寄り添った指導ができるように心がけていきたいと思えます。
- ・一方、最も評価が低かった項目は前回に引き続き、「家庭での自主学習への取組」でした。保護者、児童ともに前回も低評価になっており、学校の重点課題です。しかし、令和3年度と比べると、児童、教員、保護者ともに改善傾向にあり、学校の取組が徐々に成果が出始めているようです。引き続き、子供たちへの声かけとともに、宿題や課題等について充実させていきます。また、一部の児童において家庭学習が習慣化していない状況にあり、さらに工夫していく必要があります。
- ・次に評価が低かった項目は、「健康や食に関する指導」でした。しかし、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答している教員が前回より11.1%上昇しています。コロナ禍において、健康に関する指導については、日常的に子供たちに行っており、食に関する指導については、鹿嶋市作成動画のSDG'sに関する食品ロスの指導や、学校栄養教員による食に関する指導などを実施したことにより上昇したと考えられます。子供たちの評価も低くはありませんが、今後、さらに工夫して指導に当たっていききたいと思えます。